アーバンデータチャレンジ2022

和歌山ローカルナレッジ

《様々な活動主体による地域情報化》 地域を知り、共有すれば、心が動く。

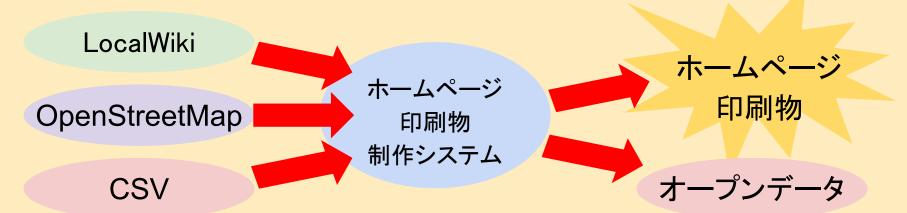
> UDC和歌山実行委員会 上仲 輝幸 株式会社 紀伊民報 マルチメディア事業部

> > 〒646-8660 和歌山県田辺市秋津町100 TEL 0739-26-7171 FAX 0739-81-7181

> > > e-mail:t-kmnk@agara.co.jp

和歌山ローカルナレッジとは

- ●オープンデータやデータベースを活用した地域学習とデータ作成、和歌山大学がきっかけで広がった LocalWikiやOSMを活用した、マッピングパーティーなどシビックテックの活動。
- ●自治体や学校、さまざまな組織や企業、住民などが連携して、地域の歴史や文化、地理、産業、 観光資源などを集約し、共有財産とする。
- ●紀伊民報のシステム「eメイド」を通してオープンデータの公開、WEBサイトや印刷物で見える化。 ソーシャルメディアなどを活用し、情報流通の促進をする。
- ●さまざまな立場や多世代との交流活動を通じて、情報を共有し、地域課題の解決に取り組み、昔を知り、 今に合った地域コミュニティーの再構築が最大の目的。



ホームページ更新システム「eメイド」

- ●eメイドは、ホームページや印刷物を制作する紀伊民報のシステム。
- ●さまざまAPIのサービスや、CSVからもインプットとアウトプットが可能。

和歌山ローカルナレッジでは、下記を活用して、情報流通の促進を図る

- ●LocalWikiからAPIで情報を取得し、WEBサイトや印刷物を生成する仕組み
- ●CSVデータから、WEBサイトを生成する仕組み
- ●WEBページの生成や、入力した情報をCSVで出力できる情報共有システム

「Kiiminpo OpenData Project」の活用。

CC BYライセンス (二次利用、再配布が自由)



「和歌山ローカルナレッジ」の目的

地域課題の解決という共通の目的があっても、それぞれの状況や立場によって、



みんなで取り組みオープンデータにすることで、それぞれの目的を達成

【活動内容】

熊野高校の1年生と、高齢者の安否確認のボランティアに取り組む同校Kumanoサポーターズリーダー部は、フィールドワークをする中で、家屋・空き家などによる二次被害が起こる可能性のある道路の位置情報を取得しオープンデータ化。本活動の成果は、紀伊民報が開発したシステムを使ってウェブサイトで公開し、UDC提出作品とする。

【目的】

和歌山県の空き家率は全国2位、別荘等を除くと1位である。 人口減少に伴い深刻な問題となっているため、空き家の メリットデメリットを知り、高校生に出来ることを探究する ことが目的。





【開催概要】

- ①1年生必履修科目『家庭基礎』探究学習ホームプロジェクト
- ●事前学習1:1級建築士によるゲストティーチャー事前学習会『空き家問題について』 6月6日(月):GH組(32名)3限目、6月9日(木):CD組(32名)3限目 6月10日(金):AB組(32名)3限目、6月14日(火):EF 組(32名)3限目
- ●事前学習2:テーマ設定と個人パソコンを使ってデータ収集 7月11日(月):GH組(32名)のうち、テーマを「空き家問題」に設定した生徒7名 7月14日(木):CD組(32名)のうち、テーマを「空き家問題」に設定した生徒2名 7月15日(金):AB組(32名)のうち、テーマを「空き家問題」に設定した生徒25名 7月19日(火):EF 組(32名)のうち、テーマを「空き家問題」に設定した生徒18名 計52名
- ●実践活動期間7月20日(水)~8月30日(火)
- ●ホームプロジェクト研究発表会
 - 9月1·8日(木):CD組(32名)空き家問題発表者、
 - 9月2·9日(金): AB組(32名)空き家問題発表者
 - 9月5·12日(月): GH組(32名)空き家問題発表者、9月6·13日(火): EF組(32名)
 - 上富田町20名、田辺市25名、白浜町5名、すさみ町1名、那智勝浦町1名、和歌山市1名 142人中55人が空き家問題を探究
- ●参加人数:1学年生徒数55名•先生2名
- ●関係者や協力者:建築士、田辺市建設課、西牟婁振興局、白浜町



【開催概要】

②上富田町高齢者安否確認ハートフルチェックボランティアに「気になる空き家」と「住宅用火災報知機の設置確認調査」を追加

3月15日(火): 本校選択5教室「高齢者安否確認ハートフルチェックボランティア オンライン上富田町生馬鳥渕地区4名」(4人)

5月26日(木):上富田町朝来地区

「高齢者安否確認ハートフルチェックボランティア10軒」(6名)

6月1日(水): 上富田町朝来・南紀の台地区

「高齢者安否確認ハートフルチェックボランティア13軒」(7名)

9月6日(火):上富田町生馬鳥渕地区

「高齢者安否確認ハートフルチェックボランティア13軒」(7名)

10月18日(火):上富田町岡地区「高齢者安否確認ハートフルチェックボランティア10軒」(9名)

11月8日(火):上富田町下鮎川地区「高齢者安否確認ハートフルチェックボランティア14軒」(9名)

12月13日(火):上富田町岩崎地区「高齢者安否確認ハートフルチェックボランティア12軒」

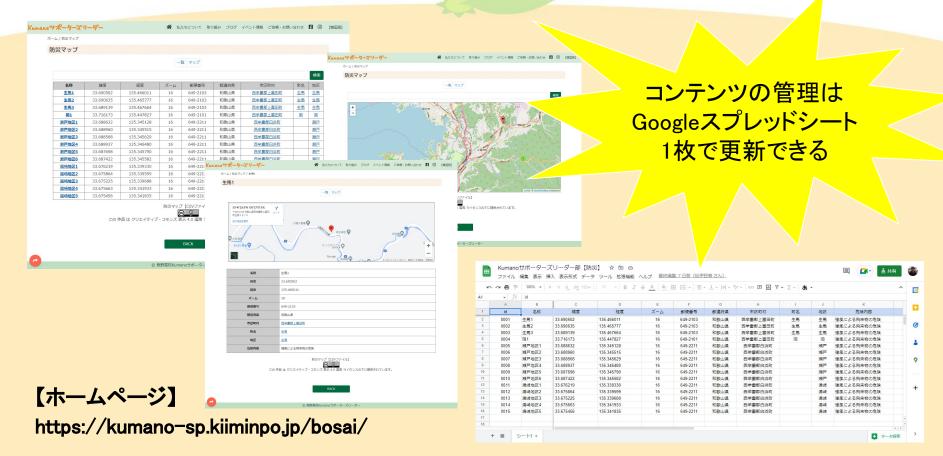
(生徒会2名・サポーターズ6名)

12月28日(水): 白浜消防署・白浜警察署「住宅用火災報知機と空き家問題についての聞き取り調査」(2名)

1月11日(水):本校選択2教室「集計活動」(21名)

●関係者や協力者:上富田町役場、町議会議員、消防署、社会福祉協議会





ハザードマップには ないポイントの情報





高齢者のお宅などの 情報と合わせて 使用する

学習成果を発表する場「みんなの学習ひろば」

基幹となるデータベースは、生徒がパワーポイントのスライドや ワードの文書、ポスター(画像)などにまとめた資料を格納。 入力はエクセルやスプレッドシートで行い、学校や学年、クラス 単位で大量の情報を一括で管理することができる。情報の修正 や削除も、シート上で行い、アップロードするだけなので簡単。 入力に当たって都道府県名、年度、学校名、カテゴリなどを 付記することで検索を容易する。 全国の小中高校で登録が可能。 登録された情報はオープンデータで 公開するので、誰でもご自由に、 ウェブページに埋め込み可能。



学習の成果は 紀伊民報が管理する ウェブサイトに登録! オープンデータとして公開

和歌山ローカルナレッジが考えるシビックテック

- ●人と情報をつなぐ
- ●情報と情報をつなぐ
 - ●人と人をつなぐ

情報を共有すれば、心が動く

和歌山ローカルナレッジが考えるシビックテックは、 技術の前に「つなぐ」がスタートライン。